

千葉歴史の散歩道

佐原の大祭(たいさい)

県教育庁教育振興部文化財課指定文化財班文化財主事 やまもと のぶこ 山本 伸子



香取市佐原は近世以降に利根川の舟運の拠点として栄えた町である。「お江戸見たけりや佐原へござれ 佐原本町 江戸優り」と唄われるほどで、江戸の文化を取り入れつつ独自の華やかな文化を発展させ、その面影を残す町並みが今に残っている。このような歴史的景観を残した町で「佐原の大祭」は開催される。

佐原は町の中央を流れる小野川を挟んで、東側が本宿、西側が新宿と、大きく二つに分かれている。夏祭りは本宿の鎮守である八坂神社の祇園祭で、7月10日以降の金・土・日という日程で行われており、秋祭りは新宿地区の鎮守である諏訪神社の大祭で、10月第2土曜日を中日とする金・土・日に行われている。

佐原の大祭の特徴は、歴史的な町並みを舞台に曳き廻される豪壮な山車(だし)と哀愁を帯びた佐原囃子の音色にあらう。本宿の夏祭りでは10台、新宿の秋祭りでは14台の山車が曳き出されている。大祭に初めて山車が現れたのは18世紀の前半で、その後300年にわたり現在まで山車の曳き廻しは受け継がれている。山車は大天井と中天井の2層構造で、2本の心棒と四つの車輪で支える形は、佐原を中心に独自の発展をとげたもので「佐原型山車」と呼ばれる。山車を装飾する重厚かつ繊細な彫刻も見事である。大天井の上には江戸から明治期の、名人と呼ばれた人形師によって制作された高さ4mにも及ぶ大人形などが飾られ、山車全体の高さは9m近くにもなる。

中天井には佐原囃子を奏でる下座連が乗る。佐原囃子は、日本三大囃子の一つに数えられ、

独特の調べと曲目の多様さが特徴である。曲目は曲の性格によって大きく三つに分類され、50以上の曲がある。一つ一つの曲目が山車の動きと深く関わっていて、山車の運行状況に合わせて選曲される。佐原囃子がなくては山車は曳けないと言われるほど祭りに欠かせないものである。



佐原の大祭 夏祭りのようす

平成16年には「佐原の山車行事」が国の重要無形民俗文化財に指定され、平成28年には「山・鉦・屋台行事」の一つとしてユネスコの無形文化遺産に登録されるなど、文化財としての価値にも関心が高まっている。更に同年、佐原を含む四市が「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」として日本遺産に認定された。今年の夏祭りは7月12日から14日に行われ、秋祭りは10月11日から13日に行われる予定である。佐原の大祭と歴史的町並みを見に、ぜひ足を運んでほしい。

千葉教育 萩 (No. 657) 令和元年8月30日発行

編集・発行 千葉県総合教育センター (代表) 秋元 大輔

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13 TEL 043-276-1204

URL <https://www.ice.or.jp/nc/>